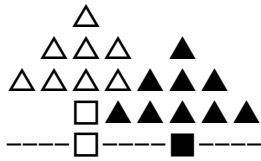


2019/2/15

林業試験場メールマガジン



『北の森の達人』

Vol. 56 第56号

□■□読者の皆様へ□■□

いつも林業試験場メールマガジン『北の森の達人』をお読みいただき、ありがとうございます。

今回のメールマガジンは、森づくりセミナーのご案内です。苗木の生産や林業における労働力不足等の問題に興味のある方は是非いらしてください。

■「森づくりセミナー」を開催します。  
--北海道におけるコンテナ苗生産・植栽システムの開発--

□ カラマツコンテナ苗の育苗方法 (道総研林業試験場道北支場 来田和人)

コンテナ苗育苗の省力化を図ることを目的として、カラマツ種子をコンテナに播種して1年で成苗にする育苗技術開発に取り組みました。本発表では、近赤外光選別した種子の発芽率、発芽に最適な温度、そして、コンテナセルサイズ、播種時期、施肥量、野外馴化のタイミングが苗木の成長に与える影響について報告するとともに、北海道におけるカラマツ一粒播種コンテナ苗の最適な育苗方法について提案し、その育苗コストの試算結果を紹介しします。

□ 北海道におけるコンテナ苗の植栽成績 (森林総合研究所北海道支所 津山幾太郎)

人工林の主伐増加に伴って懸念される苗木生産量の不足や、再造林にかかるコストの低減に有効な方法として、コンテナ苗の活用が期待されています。コンテナ苗は、育苗作業や植栽作業が比較的容易なうえ、裸苗よりも活着が良好といわれています。しかし、日本では植栽試験による有効性の検証はまだ十分ではありません。そこで、本発表では、北海道内の様々な地域の人工林における、植栽後の苗木の追跡調査データを用いて行った、コンテナ苗の植栽成績の検証結果を紹介しします。

□ コンテナ苗の運搬・植栽システムの提案 (道総研林産試験場技術部 近藤佳秀)

コンテナ苗は形が均一で活着が良いことから大量生産に向き、今後の造林面積の増大と担い手不足に対応できる苗として期待されています。一方、かさばる、重いという欠点もあり従来の裸苗とは異なる運搬・植栽技術が必要となります。そこで、本発表では、既存の技術+αのシステムについて作業効率を調査した結果を示し、裸苗と同等以上に効率よく楽に植栽できるシステムを提案しします。

□ 北海道におけるコンテナ苗の展望と課題 (道総研林業試験場道北支場 来田和人)

今日の発表3題の内容を振り返るとともに、コンテナ苗の育苗、造林の現状ならびに研究の進展状況から見える今後の展望と課題について発表しします。

皆様の来場をお待ちしています。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

- ・日時 2019年3月4日（月） 13:00～15:40 受付 12:20～
- ・会場 かでる2・7 大会議室（4階） 札幌市中央区北2条西7丁目

<http://www.hro.or.jp/list/forest/research/fri/news/seminar304.html>

林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近な  
みどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。

■発行・編集

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 森林研究本部林業試験場  
〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山

■問い合わせ

企画調整部普及グループ  
電子メール forestry-mmg@hro.or.jp

■記事の取り扱い

林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することはご遠慮ください。